

平成28年度 岐阜県立多治見北高等学校

「生徒及び保護者を対象とするアンケート」実施結果と分析

1 「生徒及び保護者などを対象とするアンケート」実施概要

- (1) 生徒アンケート（全員対象） 7月11日（月）～15日（金）で実施
- (2) 学校評議員アンケート（5名） 6月24日（金）～30日（木）で実施
- (3) 保護者アンケート（全員対象） 7月11日（月）～25日（月）で実施
- (4) 回答数：生徒740名、保護者531名、学校評議員4名

2 アンケートへの対応

- (1) 多治見北高等学校ホームページに掲載する
- (2) 教職員で検討し、学校運営に役立てる
- (3) 学校評議員会に提出する
- (4) 「自己評価」及び「学校関係者評価」の資料として活用する

3 結果の分析・評価

アンケートの有効な回答は、生徒は約98%、保護者は約71%であった。マークシート方式のため、マーク方法の間違い等により読み取れない回答が保護者の回答に目立った。アンケート項目は昨年度と同一なので、すべての項目で比較分析ができる。

全項目に対する肯定的な意見の割合は、平均すると生徒79%（昨年79%、2年前81%）、保護者等78%（昨年80%、2年前80%）となり、これまでと同様に肯定的な回答が多く、概ね本校の教育活動を理解していただいていると判断できる。しかし詳しく見ていくと、生徒・保護者ともに昨年度の入学生（現2年生）による評価が、昨年の調査に続いて他学年より明らかに低い傾向が見られる。

(1) 生徒アンケートより

- ・ 生徒アンケートでは、肯定的な回答（AorB）が平均79%と昨年と同じであった。肯定的な回答が80%を越える項目は昨年より2項目増え、41項目中21項目であった。
- ・ 以下の項目では、肯定的な回答が昨年度より5%以上増加した。
 - 項目 5「本校からの連絡文書等は、保護者に確実に届けている。」+5
 - 項目 19「本校では、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。」+5
 - 項目 25「本校では、外部講師の講演や様々な体験活動など授業以外の学習の機会が多い。」+7
 - 項目 40「本校生徒は、第二ボタンをはめ、シャツを入れて服装を整え生活している。」+5
- ・ 以下の項目では、肯定的な回答が昨年度より5%以上減少した。 ↓-14
 - 項目 24「本校では地震や台風などの場合の対応についての対策マニュアルを示し、説明している。」
 - 項目 37「学校での学習活動で十分実力が身につき、学習塾等の必要性を感じなくなっている。」
 - 項目 39「本校生徒は、はきはきした挨拶をし、交通マナーを遵守して登下校している。」-7 ↑-7項目 25 の増加は、探究推進部の創設やリーディングプロジェクトの実施により充実してきた様々な企画が評価されたのではないかとと思われる。項目 24 の大幅な減少は、今年度大雨や台風などでの警報が一度も出されず、警報時の対応マニュアルが配布されていない事が大きく影響したと考えられる。また、項目 37 は2年連続で7%の大幅減少であり、学習塾に頼る傾向がさらに高まりつつあることを示している。

- 次に示すのは他の項目と比較して評価が低く、C、Dの比較的多い項目である。
 - 項目 13「本校では、テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている。」 65%
 - 項目 37「学校での学習活動で十分実力が身につく、学習塾等の必要性を感じなくなっている。」 43%

特に項目 37 に関しては 2 年連続での 7% 減少であり、特に 2 年生の 36% が大きく平均を下げている。家庭での学習時間の減少傾向とともに、塾での学習に頼る傾向が強まっているように思われる。「自主、自立、自学」を校訓とする本校としては、家庭での学習に一人でじっくり取り組める生徒の育成に力を入れる必要がある。

(2) 保護者・学校評議員を対象とするアンケートより

- 保護者アンケートでは、肯定的な回答（A or B）が平均 78% と昨年より 2% 下がったが、相変わらず高い評価をいただいている。
- 以下の項目では、肯定的な回答が昨年度より 5% 以上減少した。
 - 項目 3「学校は、一人一人のよさや可能性を伸ばすことに努めている。」 -7
 - 項目 11「学校は、ホームページ等を用いて保護者（地域）に速やかに伝えている。」 -8
 - 項目 19「学校は、テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている。」 -6
 - 項目 35「学校は進路希望達成のための活動を支援し、それにふさわしい家庭学習時間を確保させ、学力の向上を図っている。」 -7 ↓-9
 - 項目 21「学校は、個人の興味・関心、希望や能力にあった選択授業や少人数授業を行っている。」
 - 項目 37「学校での、毎日、毎週の課題や小テストは学力の向上に役立っている。」 -5

全体平均の 2% 減少は、これらの項目の減少によるところが大きい。結果を素直に反省して、今後の指導に生かすことが大切である。また、学校の行っている指導や様々な行事による教育効果が、保護者に十分伝わっていない面もあると思われる。学年通信やホームページによる広報等で、よりていねいで速やかな情報提供を心がけることも大切である。

- 次に示すのは他の項目と比較して評価が低く、C、Dの比較的多い項目である。
 - 項目 9「学校は、保護者（地域）の悩みや相談に適切に対応してくれる。」 64%
 - 項目 19「学校は、テストの得点だけでなく、いろいろな面から学習の評価を行っている。」 60%
 - 項目 24「学校は、いじめや差別を許さず、厳しく対応している。」 65%
 - 項目 34「学校は、ボランティア活動の大切さを教えると同時にその機会を提供している。」 63%
 - 項目 38「毎日の家庭学習時間は最低でも 3 時間は確保されている。」 61% ↓44%
 - 項目 39「学校での学習活動で十分実力が身につく、学習塾等の必要性を感じなくなっている。」
 - 項目 41「本校生徒は、はきはきした挨拶をし、交通マナーを遵守して登下校している。」 67%
- 評価の低い項目は昨年と全く同じである。学校の取り組みや教育方針が保護者に理解されるように、様々な機会をとらえて情報提供する努力が大切である。
- 全体としては、保護者から良い評価をいただいているが、大きく評価を下げた項目がいくつもあることは無視するわけにはいかない。今後も継続して改善に努めるとともに、学校の取り組みが保護者にも伝わるように、情報提供や広報活動に努めることが大切である。